

乗り継ぎ環境の整備について

(1) 公共交通に係る基本的な考え方

将来にわたり、持続可能な交通網のあり方を示すとともに、道路整備の重点化や基幹的な公共交通網への支援を行うことを目的に四日市市都市総合交通戦略を平成23年10月に策定し、その後、平成26年12月に四日市市地域公共交通網形成計画を策定した。四日市市地域公共交通網形成計画は、四日市市都市総合交通戦略に沿って、公共交通に係る詳細計画として、ソフト施策を充実させたものである。

【両計画の基本的な考え方】

① 鉄道と幹線バス路線で形成する基幹公共交通網の形成

- ・ 鉄道輸送では、サービスの維持・向上及び安全性の確保とともに利用の拡大を図り、地方鉄道及び支線の路線維持を図る。
- ・ バス輸送では、鉄道を補完し、通勤・通学などを分担する骨格となる幹線バスと支線バスを組み合わせた効率的な路線への再編に取り組み、幹線バス路線の定時性や頻発性を確保する。

② 生活圏内の移動手段確保

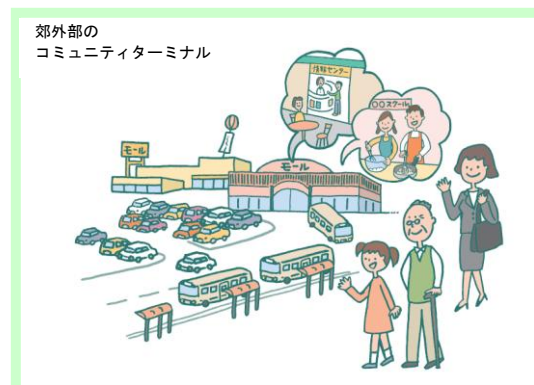
- ・ 利用者や運行頻度が少ない路線や公共交通が整備されていない地域では、高齢者など交通弱者の移動手段を確保するために、病院や商業施設など生活に必要なルートを回る支線バス路線への再編や「生活バスよっかいち」のような地域が参画したコミュニティバスの導入に取り組む。

③ 公共交通の起点、接続点における利便性・快適性の向上

- ・ 駅や幹線バスと支線バスの乗り継ぎ箇所など、基幹公共交通への接続点では、自家用車や自転車と鉄道・バスの乗り継ぎがスムーズにできる環境を整えると共に、地域の商業機能や駅等と連携した交流と交通の複合拠点（コミュニティターミナル）づくりを進める。

CT（コミュニティターミナル）とは

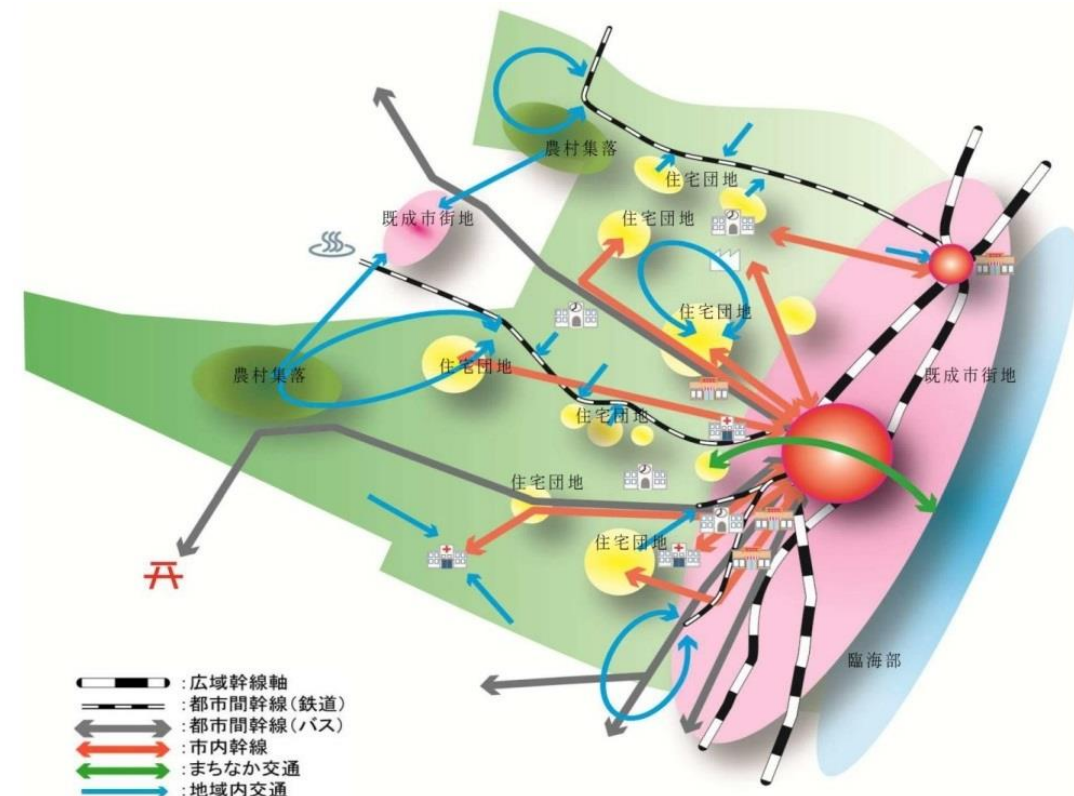
・ 近郊・郊外部における商業施設や公共公益施設、駅など、地域のコミュニティの場となる拠点において、鉄道やバスなどの乗り換え機能を併設した交流と交通の複合拠点。



四日市市都市総合交通戦略が目指す将来像



四日市市地域公共交通網形成計画における将来ネットワーク像



(2) イオンタウン四日市泊への路線バスの乗り入れ

①経緯

平成30年度 秋頃	<ul style="list-style-type: none"> ・イオンタウン株式会社（以下「イオンタウン」という。）が三重交通株式会社にイオンタウン四日市泊への平田四日市線・長沢線のバス乗り入れについて打診。 ・イオンタウンが四日市市にイオンタウン四日市泊へのバスの乗り入れについて協力要請。
平成31年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・四日市市都市総合交通戦略バス路線再編に係る分科会を開催（H31.2.25）し、コミュニティターミナルの整備の必要性を確認。
平成31年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・本市、イオンタウン、三重交通の三者にて、乗り入れについて協議開始。
平成31年4月	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者が平田四日市線のイオンタウン四日市泊への乗り入れについて合意。
令和 元年5月	<ul style="list-style-type: none"> ・イオンタウン四日市泊がバスシェルターの敷地を提供し、三重交通が路線変更等に対応。それに合わせ、市がバスシェルターを設置する方向で取り組むことを合意。
令和 元年7月	<ul style="list-style-type: none"> ・三重交通：新交通サービス推進課を新設し、AI、ICTを活用した次世代のモビリティシステムの実現等を目指す。 ・本市と三重交通が、廃止が予定されている長沢線について、車両を小型化し、内部駅への乗り入れも視野に、共同での新たな輸送形態について協議していくことを合意。
令和 元年8月	<ul style="list-style-type: none"> ・三重交通：共同での新たな輸送形態についての協議には時間を要することから、令和2年9月末まで長沢線の運行継続を予定。 ・三重交通：平田四日市線全便のイオンタウン四日市泊への乗り入れについて概ね合意。 ・本市：バスシェルター設置予算上程（16,000千円）

②乗り入れ予定路線名、本数および時期

路線名	現在の運行本数	乗り入れ予定本数	乗り入れ予定時期
平田四日市線	平日10往復、 土日祝7往復	全便	令和2年2月（調整中） （令和元年11月 イオンタウン四日市泊リニューアルオープン）
和無田（長沢）線	平日5往復、 土日祝運休	全便	
磯津高花平線	平日9往復、 土日祝7往復	平日4往復、 土日祝2往復 ※（調整中）	

※医療センター行、高花平行きの全便

③期待する効果

- 交通の乗り継ぎ拠点（コミュニティターミナル）の設置による輸送人員の増加（キス&ライド等）。
- 共同実験について協議している長沢線のイオンタウン四日市泊ー和無田地区間について、支線化・車両小型化による路線の維持・定着。
- 支線化・車両小型化した長沢線を内部駅の駅前広場に乗り入れることで、四日市あすなろう鉄道との相互利用増加。
- 近鉄四日市ーイオンタウン四日市泊間における通勤・通学利用の増加。
 - ・イオンタウン四日市泊の従業員の通勤時における公共交通利用
 - ・海星高校が令和3年4月入学生から女子生徒の募集を開始することに伴う雨天時のバス利用

[シェルターのイメージ]



〔市内南部のバス路線図〕

